

一般的な四肢の骨折から、多発外傷、骨盤外傷、脊椎損傷、脊髄損傷に至るまで、あらゆる骨折・外傷の治療を行っています。骨折治療は、整復・固定・リハビリテーションを一貫して行います。

1. 高エネルギー外傷

交通外傷、転落事故、重量物の下敷きになるなどの高エネルギー外傷では、骨折だけでなく多臓器損傷、出血性ショックなどを伴うことが多く、全身状態を管理する必要があります。さらに、局所では血管損傷、軟部組織損傷などを伴うことも少なくなく、治療には高度な知識、経験、技術が要求されます。

① 骨盤骨折

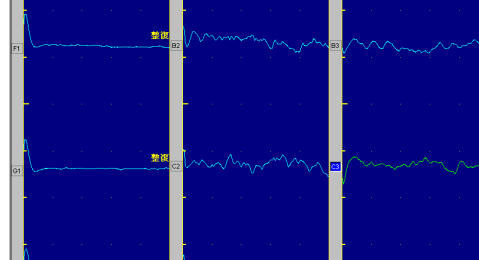
骨盤骨折は股関節の関節面骨折を伴う寛骨臼骨折と、伴わない骨盤輪骨折に分けられます。いずれも交通外傷や高所からの転落外傷など、強い外力がおよび骨折するため、骨折部のみならず多臓器損傷を合併することが多く、迅速かつ適切な初期治療が必要となります。不安定型の骨盤輪骨折では、死亡率が10%前後と非常に高いのが特徴です。また、例えば救命できても骨折部のずれが大きいと、将来に強い痛みが残ったり、変形性股関節症となることがあるため、手術治療が必要となります。



骨盤輪骨折に対する観血的手術



骨盤輪骨折の手術ではナビゲーションシステムを用いて、正確で安全な手術を行っています。



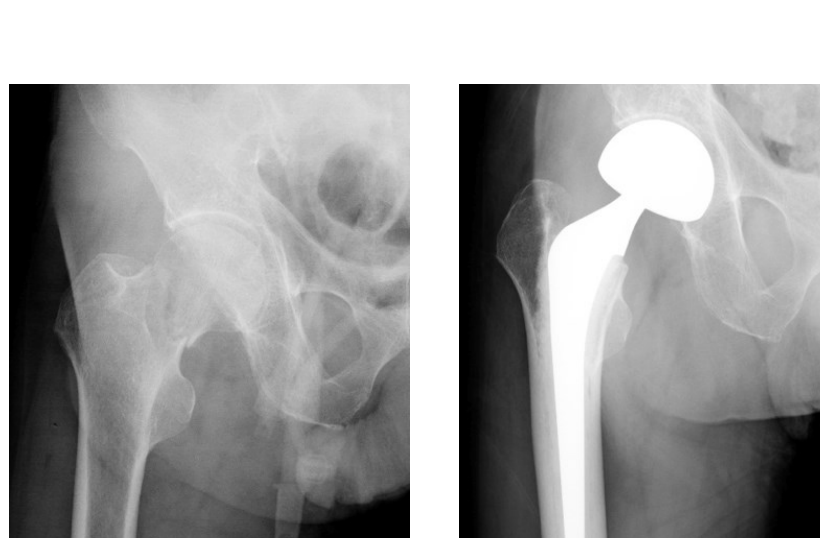
仙骨骨折を伴う骨盤輪骨折では、腰神経、仙骨神経のモニタリングを行い、手術中に神経を圧迫していないかを確認しながら手術を行います。

2. 高齢者の骨折

骨粗鬆症を伴う高齢者によくみられる骨折には、転倒した際に手をついて受傷する橈骨遠位端骨折、肩を打って発生する上腕骨近位部骨折、尻もちをついて発生する大腿骨頸部骨折、大腿骨近位部骨折などがあります。寝たきりにならないように、手術治療と早期からのリハビリテーションを行っています。



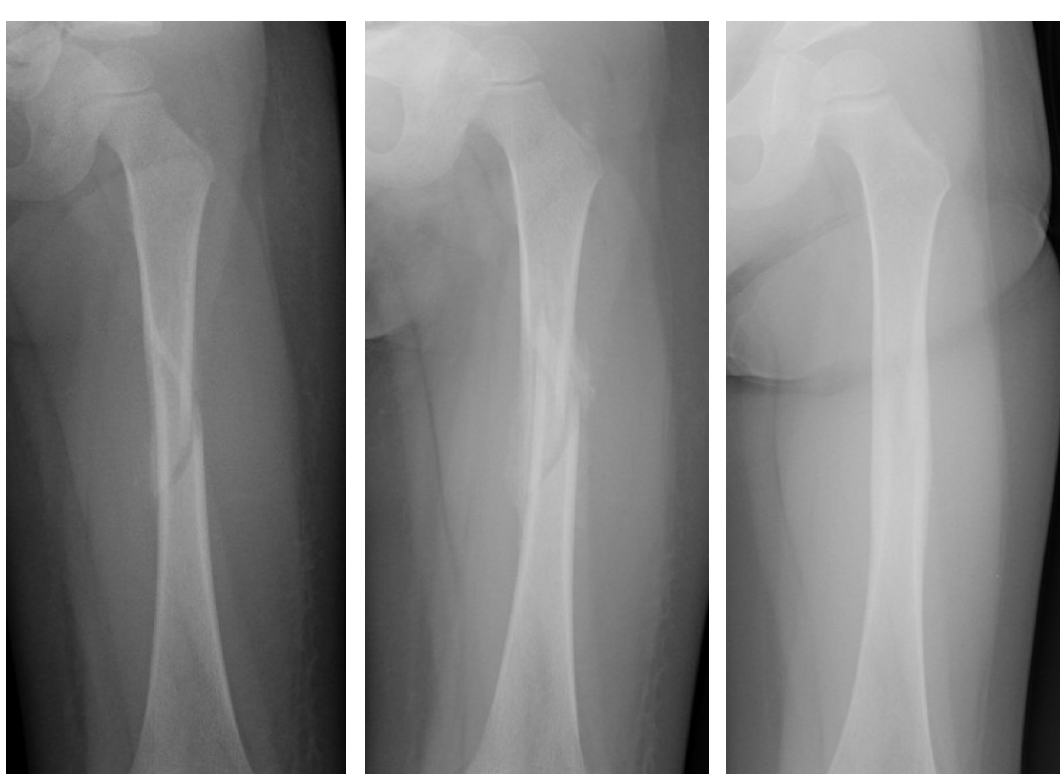
転倒した際に手をついて発生する橈骨遠位端骨折



転倒した際にしりもちをついて発生する大腿骨頸部骨折

3. 小児の骨折

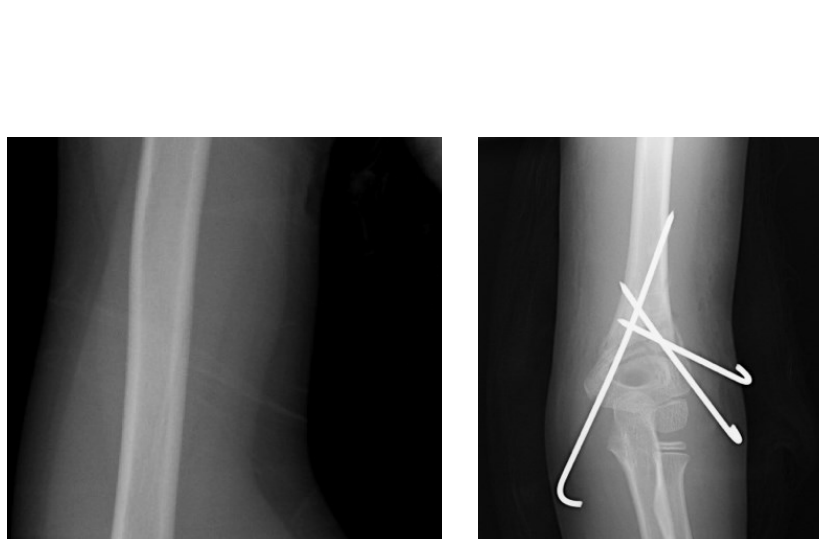
小児の骨折では、骨癒合が早く自家矯正力が働くため、手術を行わずにギプス固定や牽引療法などによる保存的治療を行います。骨折の転位が大きい時、骨折部の安定性が得られない時、骨端線損傷(骨の成長する部位の骨折)などでは手術治療を行います。小児では将来に変形や機能障害を残さないよう治療を行い、骨癒合後も経過観察していくことが必要です。



2週後

2ヵ月後

大腿骨骨幹部骨折の牽引による治療



上腕骨顆上骨折に対し整復後経皮鋼線刺入術を行ったところ